

(事後評価)

中部地方ダム等管理フォローアップ委員会概要
横山ダム湖活用環境整備事業

平成21年12月18日

国土交通省 中部地方整備局

目次

1. 事業の概要

- 1.1 流域及び河川の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 1.2 横山ダムの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 1.3 「横山ダム湖活用環境整備事業」の概要・・・・・・・・2

2. 事業評価

- 2.1 事業効果の発現状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 2.2 事業による環境の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 2.3 社会経済情勢等の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 2.4 事業評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
- 2.5 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化・・・・・・・・14
- 2.6 事業の費用対効果分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 2.7 現時点における評価と今後の課題・・・・・・・・・・・・・・18
- 2.8 改善措置の必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- 2.9 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価の見直し等の必要性
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

1.事業の概要

1.1 流域及び揖斐川の概要

- 岐阜県揖斐郡揖斐川町の冠山（標高1,257m）に発し、濃尾平野をほぼ南に流れ河口付近で長良川と合流し、伊勢湾に注いでいる。
- 流路延長121km、流域面積1,840km²の我が国の急流河川のひとつで、木曾三川で最も早く洪水が発生する傾向がある。

1.2 横山ダムの概要

《目的》

洪水調節 : 徳山ダムと連携し万石において6,300m³/sを3,900m³/sに低減する。

発電 : 横山発電所に最大出力70,000kwの発電を行っている。

《諸元》

形式 : 中空重力式ダム

流域面積 : 471km² **堤高** : 80.8m(ダム天端標高EL. 209.5m)

総貯水容量 : 40,000千m³ **堤頂長** : 220.2m

所在地 : 揖斐川町



管理開始: 昭和39年

1.3「横山ダム湖活用環境整備事業」の概要(1)

横山ダム周辺地域において、奥いびの緑豊かな自然や揖斐川の流れにふれあう憩いの場を提供することで地域の活性化を図るため、横山ダム湖活用環境整備事業として、岐阜県揖斐川町（旧藤橋村、旧坂内村）ダム堤体内において、ダムの中空部整備、親水護岸工、散策路等の環境整備を実施した。

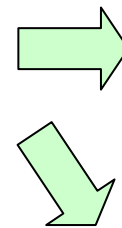
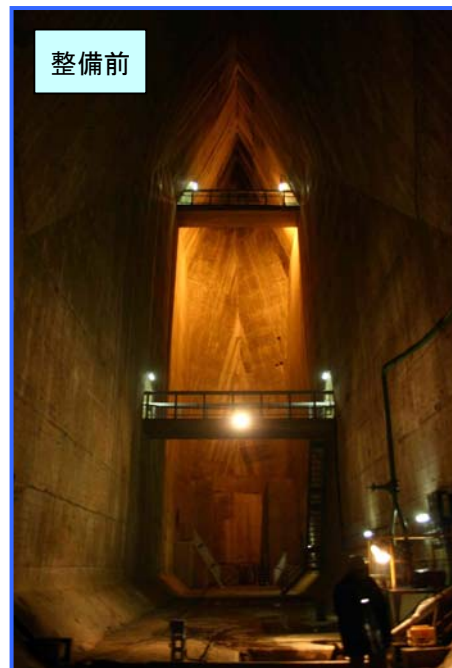
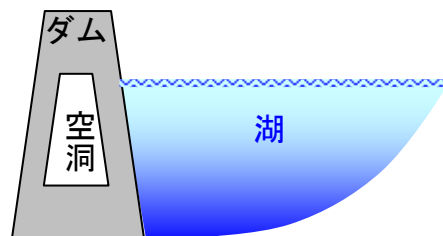


1.3「横山ダム湖活用環境整備事業」の概要(2)

①横山ダム周辺地区

【整備内容】安全に見学できるようにダム中空内を整備、スロープ、案内看板等

横山ダムについて理解を深めて頂くため、流域の案内図やダム事業説明等を展示し、中空重力式ダム内部を安全に見学できるように整備した。



1.3「横山ダム湖活用環境整備事業」の概要(3)

②藤橋城周辺地区

【整備内容】親水護岸、散策路、芝生広場等

藤橋城は揖斐川町の観光施設の一つであり、プラネタリウムや天文台、歴史民俗資料館等があり、休日は多くの観光客でにぎわう場所です。町の観光施設にあわせ、地域のシンボルである「どんどん橋」を背景に、親水公園として親水護岸、散策路、芝生広場等を整備した。



1.3「横山ダム湖活用環境整備事業」の概要(4)

③坂内川周辺地区

【整備内容】親水護岸、散策路、芝生広場等

横山ダムの掘削土砂置場を有効活用し、清流の鑑賞、釣り等の利用、子供達の親水性を高めた公園として親水護岸、散策路、芝生広場等を整備した。



2.事業評価

2.1 事業効果の発現状況(1)

横山ダムでは、横山ダム完成40周年記念イベントや「森と湖に親しむ旬間」として、ダム堤体内外の見学会や体験学習等を開催している。

年月日	イベント名称	参加人数	年月日	イベント名称	参加人数	内容
H9.7.28	森と湖に親しむ旬間	89名	H16.7.21、7.31	横山ダム完成40周年記念イベント	200名	記念式典、絵画博覧会、堤体内多目的利用、横山ダム見学会
H11.10.3	水源地見学(エコツアー)	31名	H17.7.21~7.31	森と湖に親しむ旬間	226名	横山ダム堤体内見学、ダム湖周遊、ダム事業紹介ビデオ上映、パネル展示
H12.7.23	水と緑に親しむ市民の集い	126名	H18.7.30	森と湖に親しむ旬間	48名	横山ダム堤体内見学、体験学習、パネル展示
H12.7.21~7.31	森と湖に親しむ旬間	233名	H19.7.22	森と湖に親しむ旬間	50名	横山ダム堤体内見学、体験学習、パネル展示
H13.7.21~7.31	森と湖に親しむ旬間	68名	H20.7.21~7.31	森と湖に親しむ旬間	56名	横山ダム堤体内見学、体験学習
H14.7.21~7.31	森と湖に親しむ旬間	42名	H21.7.21~7.31	森と湖に親しむ旬間	430名	夏休みの自由研究を意識した取り組み、夜叉ヶ池祭り、魚の放流、ダムマニアによる写真展示、川遊び、横山ダム堤体内見学、体験学習
H15.7.21~7.31	森と湖に親しむ旬間	131名	H21.10.22~10.30	ダムを巡るツアー	215名	JTB主催横山ダム堤体内見学



堤体内の多目的利用 (H16)



堤体内の体験学習 (H21)



ダムマニアによる写真展示 (H21)

2.1 事業効果の発現状況(2)

株式会社JTB主催の「ダムを巡るツアー」が開催され、4※ダムの見学と紅葉の旅の中で横山ダム見学もツアー行程に組み込まれ、我が国でも13ダムしかないこの中空ダム内部空間の広報活動を実施した（H21.10月22、23、27、28、30の5日間）。参加人数総勢215名。

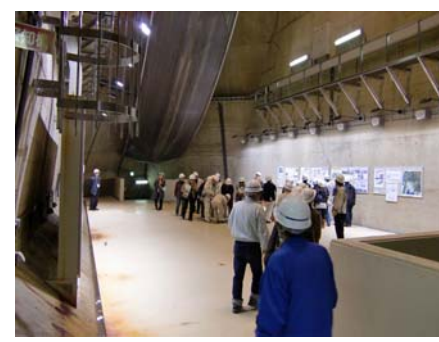
居住所	年代	性別	意見
愛知県名古屋市 天白区	60歳代	女性	忙しい中、お世話になりありがとうございます。おかげ様でダムは外見が違うと思って外だけ見てましたが構造形式などが違うことが始めて分かりました。今後ダムの見方が代わります。
愛知県 愛西市	70歳代	男性	従来ダム/ダム湖は景観を楽しむ、ボートで水遊びをするといった程度のものが主だったと思いますが、これを一歩進め ダム湖の活用範囲を拡大する方向に持ってゆかれたこと大いに賛成 です。
愛知県名古屋市 天白区	60歳代	女性	近頃ダムに関心が世間であり、珍しいツアーに参加できてよかったと思いました。建設予算をおさえながら工程を考慮して作られた横山ダム周辺の自然活用の整備は 将来も必要 と感じます。
愛知県海部郡 七宝町	61歳代	女性	横山ダム周辺の環境整備としても、遠くの人にはほとんど利用はしないでしょう。もし、多くの人に来てもらう為には、むしろ 景色の魅力がなければ行かない と思う。自然を残した良さの整備をお願いします。



堤体外でダムの説明



堤体内見学



ダム内整備地内で説明

※九頭竜ダム、真名川ダム、横山ダム、徳山ダム

2.1 事業効果の発現状況(3)

現地でアンケートした結果、主な意見として「環境整備が良くなった」、「川まで行けて気持ちよい」、「癒しのために来た」、「増設した方がよい」等の意見をいただき、今後リピーターとして来訪者数の増加や地域活性化が期待される。

居住地	年代	性別	意見
岐阜県揖斐郡池田町	30歳代	男性	子供には良い環境です。
	30歳代	女性	癒しのために来ました。坂内は遊びに行きます。
	70歳代	男性	環境整備が良くなりました。
岐阜県揖斐郡揖斐川町	50歳代	男性	河川公園がきれいになりました。
岐阜県岐阜市	40歳代	男性	きれいに整備されています。
岐阜県各務原市	30歳代	男性	整備した場所のPRがないのでわかりません。
岐阜県瑞穂市	70歳代	男性	もっと多くの方に知ってもらうようにPRして下さい。
愛知県丹羽郡大口町	40歳代	女性	整備ができてきました。
福井県三方上中郡若狭町	50歳代	男性	この様な施設、増設したほうがよいです。
無記名			歩きやすかった。階段が整備されていたので、下(川)まで行けて気持ち良かったです。

(藤橋城、坂内川施設 H21. 8. 29~30、157組 (452人) 回収)



高水敷でくつろぐ人々



護岸・水際で遊ぶ親子



休憩施設で親しむ親子



護岸で釣り楽しむ人

2.2 事業による環境の変化(1)

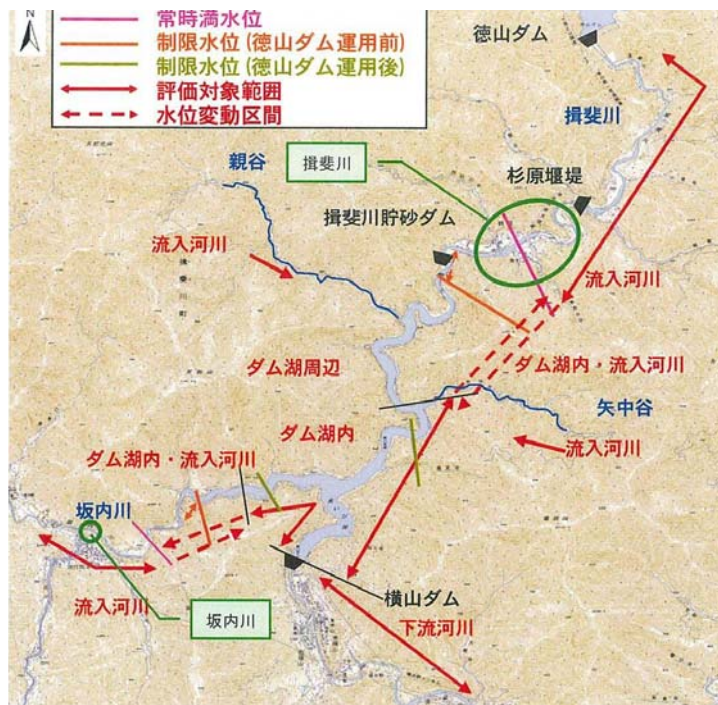
揖斐川・坂内川での魚類調査結果より、事業前後において魚類種類数に大きな変化は見られない。

揖斐川流入にて比較すると以下の通りとなった。

- ・事業実施前では3~12種類。
- ・事業後では9~11種類。

坂内川流入にて比較すると以下の通りとなった。

- ・事業実施前では6~9種類。
- ・事業後では5~8種類。



揖斐川			事業期間				事業後			
No.	科名	種名	溪流性		止水性		止水性		止水性	
			平成8年度 春	秋	平成13年度 春	秋	平成18年度 初夏	夏	平成20年度 夏	秋
1	コイ	ギンブナ	●							
2		ハス				●				
3		オイカワ	●	●	●	●	●	●	●	●
4		ヌマムツ(カワムツA型)	●							
5		アブラハヤ	●	●			●	●	●	●
6		タカハヤ								●
7		ウグイ	●	●	●	●	●	●	●	●
8		モツゴ				●				
9		タモロコ				●				
10		カマツカ				●	●	●	●	●
11		ニゴイ				●	●			
12		コウライモロコ				●				
13	ドジョウ	アジメドジョウ	●				●	●	●	●
14	ギギ	ギギ								
15	アカザ	アカザ					●	●	●	●
16	アユ	アユ	●		●	●	●	●	●	●
17	サケ	アマゴ					●	●	●	●
18	カジカ	カジカ					●			●
19	ハゼ	ウキゴリ				●	●			
20		カワヨシノボリ	●	●	●	●	●	●	●	●
	8	20	8	4	3	12	10	11	9	11

H18:4地点平均

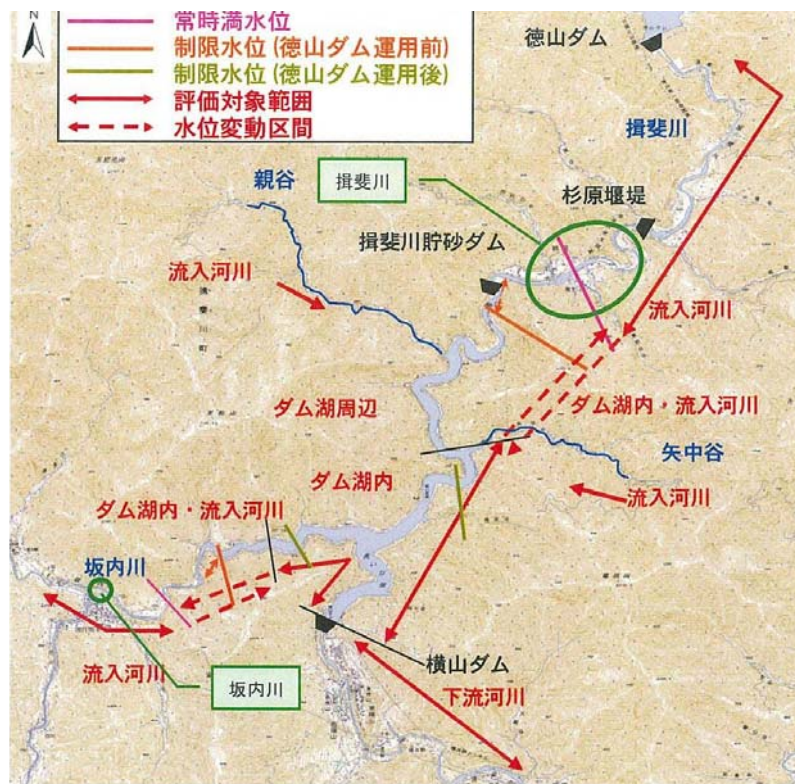
坂内川			溪流性		止水性		止水性		止水性	
No.	科名	種名	平成8年度	平成13年度	平成18年度	平成20年度	平成18年度	平成20年度	平成18年度	平成20年度
			春	秋	春	秋	初夏	夏	初夏	夏
1	ウナギ	ウナギ	●							
2	コイ	オイカワ		●		●				
3		ヌマムツ(カワムツA型)			●					
4		アブラハヤ	●	●	●	●	●	●	●	●
5		ウグイ	●	●	●	●	●	●	●	●
6		カマツカ	●	●	●	●	●	●	●	●
7	ドジョウ	アジメドジョウ	●				●	●		
8	アカザ	アカザ			●					
9	アユ	アユ	●	●	●	●	●	●	●	●
10	サケ	アマゴ	●	●	●	●	●	●	●	●
11		ニッコウイワナ					●			
12	ハゼ	ウキゴリ							●	
13		カワヨシノボリ	●	●	●	●	●	●	●	●
	7	13	8	7	6	9	7	8	7	5

2.2 事業による環境の変化(2)

揖斐川での鳥類調査結果より、事業前後において鳥類種類数は大きな変化は見られない。

鳥類の種数を比較すると以下の通りとなった。

- ・事業実施前ではH9で36種、H14で40種。
- ・事業後ではH18で44種。



注:H18調査は揖斐川流入のみのため、当地点分を整理した。

揖斐川

事業期間 ←→ 事業後

主な生息環境 水辺 樹林

No.	科名	種名	H9	H14	H18
1	ウ	カワウ	●	●	●
2	サギ	ダイサギ	●	●	●
3		アオサギ	●	●	●
4	カモ	オシドリ	●	●	●
5	タカ	トビ	●	●	●
6		オオタカ			●
7		ノスリ	●		
8		サシバ			●
9		クマタカ			●
10	キジ	キジ		●	
11	チドリ	イカルチドリ	●	●	●
12	シギ	イソシギ		●	●
13	ハト	キジバト	●	●	●
14		アオバト	●	●	
15	カッコウ	ジュウイチ			●
16	カワセミ	ヤマセミ	●	●	
17		アカショウビン			●
18		カワセミ	●	●	●
19	キツツキ	アオガラ	●	●	●
20		アカガラ		●	
21		コガラ	●	●	●
22	ツバメ	ツバメ	●	●	●
23		イワツバメ			●
24	セキレイ	キセキレイ	●	●	●
25		ハクセキレイ			●
26		セグロセキレイ	●	●	●
27		サンショウクイ			●
28	ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●
29	モズ	モズ	●	●	●
30	カワガラス	カワガラス	●	●	●
31	ミソサザイ	ミソサザイ	●	●	
32	ツグミ	ルリビタキ	●	●	
33		ジョウビタキ	●	●	
34		ノビタキ			●
35		クロツグミ			●
36		シロハラ		●	
37	ウグイス	ヤブサメ	●	●	●
38		ウグイス	●	●	●
39	ヒタキ	キビタキ			●
40		オオルリ	●		●
41	カササギヒタキ	サンコウチョウ			●
42	エナガ	エナガ	●	●	●
43	シジュウカラ	コガラ		●	
44		ヒガラ		●	●
45		ヤマガラ	●	●	●
46		シジュウカラ	●	●	●
47	メジロ	メジロ	●	●	●
48	ホオジロ	カシラダカ	●	●	●
49		ホオジロ	●	●	●
50		アオジ	●	●	●
51	アトリ	カワラヒワ	●	●	●
52		ベニマシコ	●	●	●
53		ウソ		●	●
54		イカル	●	●	●
55	ハタオリドリ	スズメ			●
56	カラス	カケス	●	●	●
57		ハシボソガラス	●	●	●
58		ハシブトガラス	●	●	●
計	29科	58種	36	40	44

2.2 事業による環境の変化(3)

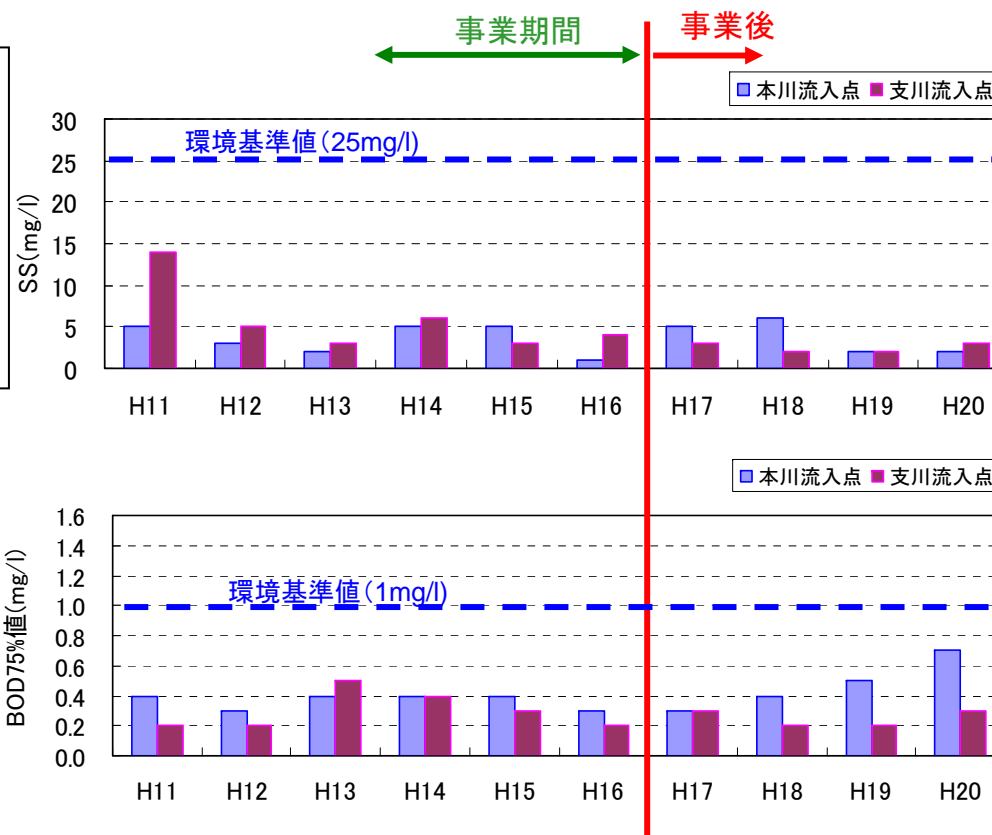
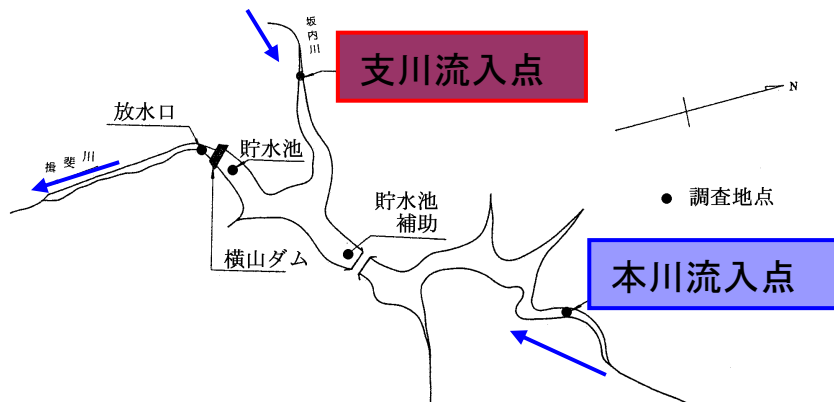
揖斐川・坂内川での水質調査結果より、事業前後においてSS・BOD75%値とも環境基準値を下回っており、大きな変化は見られない。

SSについて比較すると以下の通りとなった。

- ・事業実施前ではH11年を除いて概ね1~5mg/l。
- ・事業後では概ね2~5mg/l。

BOD75%値について比較すると以下の通りとなった。

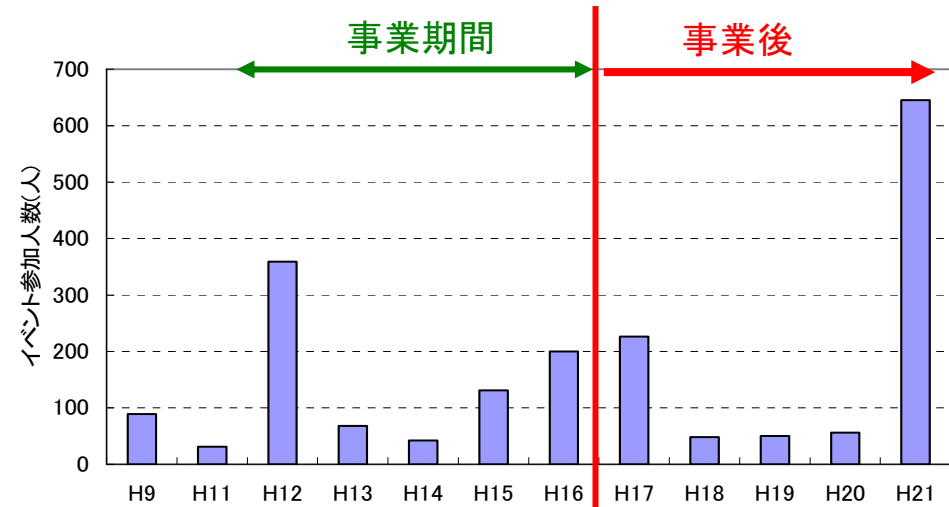
- ・事業実施前では概ね0.2~0.5mg/l。
- ・事業後では概ね0.2~0.7mg/l。



2.3 社会経済情勢等の変化

～利用状況～

横山ダムで開催した「森と湖に親しむ旬間」等のイベント参加人数は、近年ダムマニアによる写真展示やJTBツアー等の開催によって多くの人が参加している。



JTBツアー (H21)



堤体内の体験学習 (H21)



ダムマニアによる写真展示 (H21)

2.4 事業評価

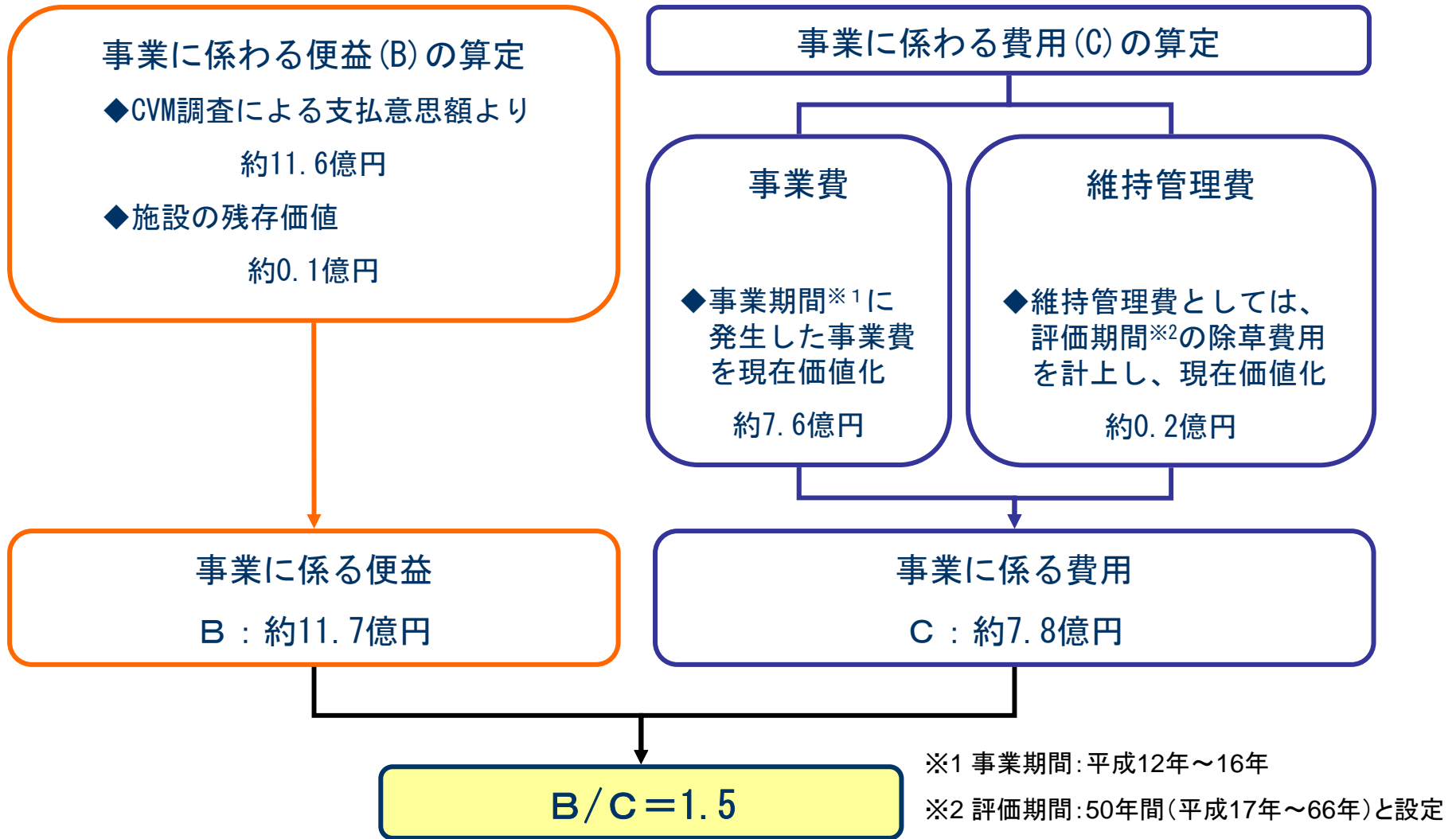
事業名	横山ダム湖活用環境整備事業		担当課	河川管理課	事業主体	中部地方整備局			
			担当課長名	井口 泰行					
実施箇所	岐阜県揖斐川町								
該当基準	事業完了後一定期間(5年以内)が経過した事業								
事業諸元	ダムの中空部整備、親水護岸工、散策路等の環境整備								
事業期間	平成12～16年度								
総事業費(億円)	約5.6								
目的・必要性	横山ダム周辺地域において、奥いびの緑豊かな自然や揖斐川の流にふれあう場を整備し、ダム湖周辺の憩いの場を提供することで、地域の活性化を図る。								
便益の主な根拠	CVM(仮想市場法)によるアンケート調査								
事業全体の投資効率性		B.総便益	(億円)	C.総費用	(億円)	B/C	B-C	EIRR(%)	基準年度
	当初	総便益	—	総費用	—	—	—		—
	事後	総便益	11.7	総費用	7.8	1.5	3.9		平成21年度
事業の発現状況	横山ダム完成40周年記念イベントや「森と湖に親しむ旬間」として、ダム堤体内外の見学会や体験学習等を開催している。								
	株式会社JTB主催の「ダムを巡るツアー」が開催され、横山ダム見学もツアー行程に組み込まれ、我が国でも13ダムしかないこの中空ダム内部空間の広報活動を実施した。								
	現地でアンケートした結果、主な意見として「環境整備が良くなった」、「川まで行けて気持ちよい」、「癒しのために来た」、「増設した方がよい」等の意見をいただき、今後リピーターとして来訪者数の増加や地域活性化が期待される。								
事業実施による環境の変化	揖斐川・坂内川での魚類調査結果より、事業前後において魚類種類数に大きな変化は見られない。 揖斐川での鳥類調査結果より、事業前後において鳥類種類数は大きな変化は見られない。								
社会経済情勢等の変化	「森と湖に親しむ旬間」等のイベント参加人数は、近年ダムマニアによる写真展示やJTBツアー等の開催によって多くの人が参加している。								
今後の事後評価の必要性	今後の事業評価の必要性は無い。								
改善措置の必要性	現時点では、事後評価制度に基づく改善措置の必要性はないが、今後もよりよい管理に向けて必要な検討を行うことが重要と考えられる。 例としては、急流河川における護岸のあり方、キャンプ場としての整備、自然の活用方策等の検討があげられる。								
同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	当該事業の事業評価手法は妥当と考え、現時点での見直しの必要性は無いと考える。なお、費用便益比(B/C)を算出する手法については、国民のニーズや社会経済状況、評価の実績、評価技術の向上等を踏まえつつ、今後ともさらなる改善を図っていく。								
対応方針	対応なし								
対応方針理由	事業効果が発現されており、今後の事業評価の必要性は無い。								
その他	—								

2.5 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化(1)

- 総事業費は、事業完成時点で約5.6億円。
- 横山ダム湖活用環境整備事業の費用便益比は、約1.5となる。

項目	事業完了時点 (平成16年度)	備考
総事業費	約5.6億円	
工期	平成12年度～平成16年度	
費用便益比 (B/C)	1.5	

2.5 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化(2)



2.6 事業の費用対効果分析(1)

費用便益比：B/C=1.5

●費用便益計算は下記にもとづき算出した。

「国土交通省所管公共事業の完了後の事後評価実施要領 平成20年7月」

「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針 平成19年」

「治水経済調査マニュアル（案）平成17年4月」

「CVMを適用した河川環境整備事業の経済評価の指針 平成20年5月」

●便益計算の一般的な手法であるCVMを用いた。

項目	算定条件	備考
①環境整備事業期間	平成12年度～平成16年度	
②評価対象期間	平成17年度～平成66年度(50年間)	
③総便益(B)	1,171百万円	割引率により現在価値化
④総費用(C)	777百万円 (事業費:758百万円 維持管理費:19百万円)	割引率により現在価値化
⑤費用便益比(B/C)	1.5	

2.6 事業の費用対効果分析(2)

(単位：百万円)

【現在価値計算結果】

年次	t	年度	便 益				費 用				費用便益 B/C	純現在価 値 B-C		
			便益①		残存価値 ②	計 ①+②	建設費③		維持管理費④				計③+④	
			便益	現在価値			費用	現在価値	費用	現在価値			費用	現在価値
整備期間	1	平成12					42.00	58.58			42.00	58.58		
	2	13					305.58	419.92			305.58	419.92		
	3	14					88.00	118.46			88.00	118.46		
	4	15					113.58	147.31			113.58	147.31		
	5	16					10.85	13.52			10.85	13.52		
施設完成後の評価期間	6	17	44.51	52.08		52.08			0.83	1.00	0.83	1.00		
	7	18	44.51	50.07		50.07			0.83	0.95	0.83	0.95		
	8	19	44.51	48.15		48.15			0.54	0.58	0.54	0.58		
	9	20	44.51	46.29		46.29			0.61	0.63	0.61	0.63		
	10	21	44.51	44.51		44.51			0.78	0.78	0.78	0.78		
	11	22	44.51	42.80		42.80			0.72	0.70	0.72	0.70		
	12	23	44.51	41.16		41.16			0.72	0.67	0.72	0.67		
	13	24	44.51	39.57		39.57			0.72	0.64	0.72	0.64		
	14	25	44.51	38.05		38.05			0.72	0.62	0.72	0.62		
	15	26	44.51	36.59		36.59			0.72	0.60	0.72	0.60		
	16	27	44.51	35.18		35.18			0.72	0.57	0.72	0.57		
	17	28	44.51	33.83		33.83			0.72	0.55	0.72	0.55		
	18	29	44.51	32.53		32.53			0.72	0.53	0.72	0.53		
	19	30	44.51	31.28		31.28			0.72	0.51	0.72	0.51		
	20	31	44.51	30.07		30.07			0.72	0.49	0.72	0.49		
	21	32	44.51	28.92		28.92			0.72	0.47	0.72	0.47		
	22	33	44.51	27.80		27.80			0.72	0.45	0.72	0.45		
	23	34	44.51	26.73		26.73			0.72	0.44	0.72	0.44		
	24	35	44.51	25.71		25.71			0.72	0.42	0.72	0.42		
	25	36	44.51	24.72		24.72			0.72	0.40	0.72	0.40		
	26	37	44.51	23.77		23.77			0.72	0.39	0.72	0.39		
	27	38	44.51	22.85		22.85			0.72	0.37	0.72	0.37		
	28	39	44.51	21.97		21.97			0.72	0.36	0.72	0.36		
	29	40	44.51	21.13		21.13			0.72	0.34	0.72	0.34		
	30	41	44.51	20.32		20.32			0.72	0.33	0.72	0.33		
	31	42	44.51	19.53		19.53			0.72	0.32	0.72	0.32		
	32	43	44.51	18.78		18.78			0.72	0.31	0.72	0.31		
	33	44	44.51	18.06		18.06			0.72	0.29	0.72	0.29		
	34	45	44.51	17.36		17.36			0.72	0.28	0.72	0.28		
	35	46	44.51	16.70		16.70			0.72	0.27	0.72	0.27		
	36	47	44.51	16.06		16.06			0.72	0.26	0.72	0.26		
	37	48	44.51	15.44		15.44			0.72	0.25	0.72	0.25		
	38	49	44.51	14.85		14.85			0.72	0.24	0.72	0.24		
	39	50	44.51	14.28		14.28			0.72	0.23	0.72	0.23		
	40	51	44.51	13.72		13.72			0.72	0.22	0.72	0.22		
	41	52	44.51	13.20		13.20			0.72	0.21	0.72	0.21		
	42	53	44.51	12.69		12.69			0.72	0.21	0.72	0.21		
	43	54	44.51	12.20		12.20			0.72	0.20	0.72	0.20		
	44	55	44.51	11.73		11.73			0.72	0.19	0.72	0.19		
	45	56	44.51	11.28		11.28			0.72	0.18	0.72	0.18		
	46	57	44.51	10.85		10.85			0.72	0.18	0.72	0.18		
	47	58	44.51	10.43		10.43			0.72	0.17	0.72	0.17		
	48	59	44.51	10.03		10.03			0.72	0.16	0.72	0.16		
	49	60	44.51	9.64		9.64			0.72	0.16	0.72	0.16		
	50	61	44.51	9.27		9.27			0.72	0.15	0.72	0.15		
	51	62	44.51	8.92		8.92			0.72	0.15	0.72	0.15		
	52	63	44.51	8.57		8.57			0.72	0.14	0.72	0.14		
	53	64	44.51	8.24		8.24			0.72	0.13	0.72	0.13		
	54	65	44.51	7.92		7.92			0.72	0.13	0.72	0.13		
55	66	44.51	7.62		7.62			0.72	0.12	0.72	0.12			
合計			2225.69	1163.44	7.41	1170.85	560.00	757.80	36.21	18.96	596.21	776.76	1.50	394.09

2.7 現時点における評価と今後の課題

1. 「横山ダム湖活用環境整備事業」に係わる便益に対する費用便益比は1.50であり、十分な事業効果が得られているものと考えられる。
2. 利用状況に関しては、整備をきっかけに環境学習の場として揖斐川町による「川遊び体験」、またJTB主催による「ダムをめぐるツアー」等が実施され、地域活性化への取り組みがなされている。
3. 生物で魚類の種類数に関しては事業前後で大きな変化はなく、上流域らしいアマゴ、アジメドジョウ等の魚類が継続して確認されており、良好な状態が維持されている。

よって「横山ダム湖活用環境整備事業」は、周辺の自然環境と調和して十分効果を発揮しているものと判断する。

2.8 改善措置の必要性

- 現時点では、事後評価制度に基づく改善措置の必要性はないが、今後もよりよい管理に向けて必要な検討を行うことが重要と考えられる。
- 例としては、急流河川における護岸のあり方、キャンプ場としての整備、自然の活用方策等の検討があげられる。

2.9 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価の見直し等の必要性

- 当該事業の事業評価手法は妥当と考え、現時点での見直しの必要性は無いと考える。なお、費用便益比（ B/C ）を算出する手法については、国民のニーズや社会経済状況、評価の実績、評価技術の向上等を踏まえつつ、今後ともさらなる改善を図っていく。